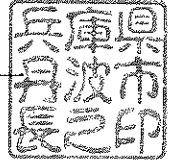


農地中間管理事業の推進に関する法律（平成 25 年法律第 101 号）第 26 条第 1 項に基づく農業者等の協議が行われたので、同項の規定により下記のとおり公表する。

令和 2 年 7 月 30 日

丹波市長 谷口 進



実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
丹波市	青垣町小倉	平成 28 年 10 月	令和 2 年 6 月

1. 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	10.1 ha
②アンケート調査に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	7.1 ha
③地区内における 75 歳以上の農業者の耕作面積の合計	1.7 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0.1 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.0 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	1.1 ha
(備考) 中間管理機構の活用は、どこまで取組を推進してくれるかによる	アンケート回答割合 (②/①) 70.3 %

2. 対象地区の課題

高齢化、後継者不足により耕作放棄田が見受けられるため、今後も出し手は増加すると考えられる

3. 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

将来的に川西地区全般で営農組合等によって規模拡大、機械の相互利用ができる取組の検討

注：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標となる所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	中心経営体	3 経営体
----	-------	-------

4. 3 の方針を実現するために必要な取組に関する方針 (任意記載事項)

生産品目の絞り込み (水稻・粟等)
低コスト、減農薬栽培で他産地との差別化を図り、直売を増進する
小倉営農組合の健全経営、後継者育成